令和6年度　大津市立伊香立中学校　学校評価書

評価の基準（３:よくできた　２:できた　１:あまりできなかった　０:まったくできなかった）

項　目		評 価 の 観 点	自己評価（3･2･1･0）	学校関係者評価（3･2･1･0）	R6自己評価に関する考察　〇成果　▼課題	R6学校関係者のご意見　◇評価　◆改善・期待	R6今後の展望（見通し）◎
校務運営	＊	教育目標、指導計画等教育課程の編成や実施	3	3	〇本校の教育課題はわかりやすく、課題解決の教育目標が全教職員に理解されている。 〇大切にしたいことを教職員にも生徒にも見える化しているので、意識しやすいものとなっている。 〇「学校予算は、各担当まで周知され、適正に執行・処理されている」の「よくあてはまる」が、昨年度に比べると約30%上昇している。 〇来年度を見据えた行事の見直しがされている。地域の特性を考えながら計画を立てられていると思う。 ▼年間行事を精選し、必要な行事のみ残していくことが必要である。 ▼各自が行事の振り返りを提示しての情報共有はあるが、全体で意見を交える機会がないので実施する必要がある。 ▼学校経営管理計画と関連させて、学校予算を配当していく必要がある。 ▼保護者負担をできるだけ軽減したいと考えているが、少人数のため、負担感がある。 ▼支援する会の補助で、親負担は減っているが、保護者の負担について、周知と見直しが必要である。	◇地域諸団体より格別の支援を受け教育過程上で質の高い取組を望んでいる。 ◇教育課題や目標が明確にされ、学校運営協議会等で詳しく説明されている。 ◇学校周囲の環境（自然が多い、保幼小中連携）、小規模校であることの特性を活かした運営がなされていると思います。 ◇地域と共に歩む学校運営を今後とも大切に、すべての生徒を支えてこそ学校であるとの信念のもとに順調な学校経営がおこなえていると感じました。 ◇伊香立中学校ならではの心配りとペースと存在感、そして学校で過ごす時間を大切にされています。	◎教育目標は、本校が過去から大切にしてきたものであるため、大きく変更せずに継承していく。 ◎教員も生徒も「教育目標を意識する」ためにも、教育目標の見える化をすすめていく。 ◎各取組については、学年により課題が異なるため、骨格であるシステムをPDCAサイクルで見直し、よりよいものにしていく。 ◎予算については、学校経営管理計画とリンクさせ、どこにいくら使っていくなどがよくわかるように見える化をすすめる。また、保護者負担を少しでも少なくしていくための周知と見直しをすすめる。
	＊	PDCAサイクルを生かした学校運営	3				
	＊	保護者負担軽減をめざした予算計画と適切な執行	2				
主体的・対話的で深い学び	1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	2	〇縦割りで行う授業や体験活動によって、生徒の成長が見られる。 〇縦割りで行う授業や体験活動の計画は、事前に教員間で情報共有ができている。 アドバンスト授業やオーバルなど、体験活動の充実は本校の強みだと思う。体験活動が大変大k、子どもたちにとって有意義なものとなっていると感じる。 〇どの教科においても、主体的で対話的な学びを意識して指導をしている。 ▼どの教科もおいても共通実践として主体的な学びとは、自らが計画を立て、活動し、それついて振り返ることで、次の学習の課題へ見つけることが必要である。「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業づくりに継続して取り組み、発展させることが必要である。 ▼自ら課題を見つけて主体的に取り組むことは難しい。何をどのように取り組めばいいのかわからず、支持を待つ生徒が多い。手順の例を示し、それをもとに考えさせる方法が望ましいと思う。 ▼実施時期が年度当初にわかると、見通しをもって取り組めるのではないか。	◇小規模校の特性を活かして、全校生徒が交流できる機会を多く設けている。 ◇体験的な学習等もたくさん行い、それぞれに活躍の場を設定しておられるのもよく分かりました。 ◆少人数のため、生徒自身が、学力がどの位置にいるのか実感しにくいのが難しいところだと思います。協力する姿勢はよく育まれていると思います。競い合う機会を創出することがこの学校には必要なのかもしれません。その分生徒の個性をしっかりと伸ばす教育・指導をこれからも続けてください。	◎地域での活動や地域の方々に学校に来ていただく活動が再開されてきている。地域の方々との触れ合いの中で自尊感情の育成を図っていきたい。 ◎一人ひとりの生徒が授業で成就感や達成感が得られ、子どもの多様な意見を生かせるような授業づくりに取り組んでいく。 ◎本校の生徒の実態として、「協働的で深い学び」が今後も難しいことが予想されるが、「協働的で深い学び」につながるよう、複数人による学びを実践していく。 ◎ICTの活用に関しては、端末やソフトごとに市町や県で研修が行われている。各自で個別に必要と思われる研修に参加していく。 ◎今年度の授業実践報告から、成功点と課題点をあげることで、次年度の主題がを見つけていけばよい。
	2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用含む）	2				
	3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	2				
道徳教育の充実	4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	3	3	〇道徳科の授業だけでなく、ICT機器を使った全校道徳（10月）を実施することができた。 〇普段からの見守りや声かけで、いじめを未然に防止したり、命の大切さを体感させたりすることが出来ている。 〇いじめがダメである、とか、精神的な成長につながるようなアドバイスや指導はしている。各学年の発達段階や特性に応じた教材の選択・教材研究を行い授業ができた。 〇保護者参観（5月）、研究授業等（3月）を行い、授業に関して交流することができた。 ▼保護者参観についての広報が不十分であった。 ▼学年内での教材交流や振り返りができなかった。	◇薬物依存の恐さ、多様性を受け入れ、お互いを尊重することの大切さを授業で伝えられています。 ◆地域の歴史や文化、先人など愛郷心を育む教材開発ができないか。 ◆担任のみに任せるのではなく、他の教員と協力して取り組んでいってほしい。	◎各学年の課題や特性をふまえた教材研究に継続して取り組んでいく。 ◎道徳教育推進教師だけでなく、全教員が道徳教育について研修する機会を設ける。 ◎担任だけに任せるのではなく、学年の教員全員で道徳科の授業をつくっていく。 ◎参観に来られない保護者に向けて、ICT機器等を使用した参観の方法を検討する。
	5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	3				
	6	保護者等への道徳科の授業公開	3				
体力づくり	7	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	3	3	〇手洗い、うがい、歯磨きなど、感染予防や虫歯予防に取り組めている。 〇運動が苦手な生徒にも参加ができるようにSPや授業でのグループ活動などの工夫がされたり、視覚的に授業を行っているなど、進んで学習に取り組んでいると思われる。 〇授業や部活動において、運動・スポーツに親しむ・楽しむ機会を設けられた。（例：音楽をかける） 〇苦手な生徒は多数いるものの、周囲の雰囲気でついてこれるようになってきた。 〇部活動で、負荷や強度をかけたトレーニングに取り組むことができてきた。 ▼低い(少ない)負荷や強度なので、もう少し上げた形で取り組める心を養いたい。 ▼本人の意欲が上がるようにしなければならない（こちらの工夫の意図が届ききっていない）一部の部活動だけでは全体の底上げは厳しい。	◆現代の子どもたちはンどうする期間が減っており、部活動での体力作りも昔とは異なっています。体を鍛えることで心も強くなる、打たれ強さを身に付けてほしい。	◎縦割り活動は、競技特性に合わせて取り入れていく。 ◎体を動かす機会を増やす観点から、昼休みにグランドへ出て活動する機会を設けることが出来た。 ◎食育は、行政と連携をとって継続する。 ◎子ども同士の支援づくりが出来ると良い
	8	体力づくりを推進する運動実践	3				
	9	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2				
指導改善（組織的・計画的）	10	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	2	〇「めあて」「まとめ」「振り返り」については、各教科の実態に沿った文言でカードを掲示し、授業内容・流れを明確にしている。 〇「めあて」を提示することで、1時間の授業の見通しが持てるようになっている。 〇廊下に移動式の本棚を設置したり、本の展示紹介を廊下で行うなど、生徒に関心を持たせる工夫がされている。本を廊下やリラックスルームなど、図書室以外の場所にも置いておくことで、生徒が本を手に取る機会が増えた。 △『自ら進んで』というのが、学力が低い生徒が多い本校ではなかなか難しい。ただし、興味はあるようだ。校内研での決め事(振り返り)が徹底されていないそれぞれの先生方の業務量が多いため、精査が必要であると感じます。 △支援の必要な生徒たちへの授業づくりについて、発問の仕方や板書の工夫のポイント、プリントやテスト作成の注意点など、具体的な方法を学ぶ機会がほしい。例えば、特別支援学校の先生や通級教室の先生を講師に招いた講習会など。	◇少人数を生かした指導方法が工夫されていると思う。 ◇「めあて」を示されており、本授業で学ぶことが明確となるので良いと感じています。ICT（動画）を活用されていることで、生徒も関心を引きやすいと思います。 ◆今年度も生徒の回答で自主的読書活動に否定的な回答が多かった。読書の楽しみを見つけられるさらなる環境作りの必要がある。 ◆生徒アンケートより、読書の評価が低いことがわかる。授業での周知や保護者にもっとアピールしていく必要がある。	◎各授業の「ねらい」「まとめ」「振り返り」は継続し、身に付けさせたい力（活動のゴール姿）がイメージできる生徒を増やしていく。 ◎生徒への言葉かけや接し方、さらに支援方法についての研修機会を設け、教職員同士で共通理解をはかる。 ◎生徒が自らすすんで読書に親しめるように環境を整えていく。 ◎見通しをもった年間行事と各々の校務分掌の連携 ◎特別支援の具体的な方法を学ぶ研修の実施
	11	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2				
	12	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2				

令和6年度　大津市立伊香立中学校　学校評価書

評価の基準（３:よくできた　２:できた　１:あまりできなかった　０:まったくできなかった）

項目		評価の観点	自己評価（3･2･1･0）	学校関係者評価（3･2･1･0）	R6自己評価に関する考察　〇成果　▼課題	R6学校関係者のご意見　◇評価　◆改善・期待	R6今後の展望（見通し）◎
育ちと学びを支える連携							
① 家庭・地域との連携・協働	13	子育てや家庭学習に対する保護者への積極的な支援	2	3	〇学校だよりや学年通信、学級通信などが発行されたり、テトルで配信したり、学校ホームページが更新されたり、常に学校の最新情報が発信されている。 〇HPの学校での様子を頻繁に更新して発信することが出来た。普段から様々な先生方が、合間を縫って保護者と会話をしている場面を見かけます。そこで生まれる信頼感が有るからこそ、その後の支援に繋がっていると感じます。 〇家庭での学習習慣を確立するための支援や、子育てや家庭教育に対する支援の他、様々な情報の発信はできている。 ▼地域への発信はできているが、協同的な活動・交流ができているかは不明である。 ▼伊香立ルールのアピールができてない。スマホ・ゲームにおける「伊香立ルール」せっかくあるので、ことあるごとに話題に乗せても良いかと思います。	◇教員との距離感が近く、学校と家庭が共働で生徒を支援していると感じます。校舎入口に日々の活動風景をスライドで流して頂いているので学校の様子がわかりやすい。 ◆地域への発信は、多くの住民が中学校を身近な存在として関心を向けてもらえるような工夫があってもいいと思う。 ◆生徒アンケートより、スマホルールの評価が低いことについて、授業での生徒への指導に加え保護者に周知していく必要がある。	◎実施していることや配布しているものを生徒や保護者にきちんと伝わるような工夫が必要である。 ◎保護者同士がつながる仕掛け（授業参観、PTA研修、1･2年生の1学期末懇談会を学級懇にする等）をつくる。 ◎◎伊香立ルールの周知に工夫をし、双方向の情報共有が必要ではないか。スマホルールを、学校のきまり同様に1学期早いうちに再度周知するか、見直す必要がある。 ◎情報の発信方法について、まだまだ改善の余地があるのではないか ◎今後、防災教育等で、地域を巻き込んだ活動を企画してはどうか。
	14	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2				
	15	防災教育・感染症対策の推進等を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	3				
② 保幼小中の連携	16	子どもの校種間交流や教員の出前授業	3	3	〇年数回の小中管理職、小中教務主任との事務局会議や夢プロジェクトを中心とした児童生徒の交流など行われた。 〇合同研修会を高名な研修講師からお話を聞くことができ有意義なものになった。 〇3学期に出前授業（英語）を実施する。 〇今年度は早い時期（5月）に児童生徒の交流会を実施できた。 〇2学期より小学校の授業見学に出向いた ▼6年生との交流や小中合同イベントで、児童生徒同士の関わりを持つことはできたが、教員同士の授業参観は行うことができなかった。 ▼小→中のギャップは子どもにとっても、保護者にとっても大きいため、小中お互いに、普段からどういった活動・指導がなされているか知る機会があれば良いと思います。小中の授業研修会がないのは少し寂しい。	◇地域の保幼小と合同での活動はとても良い。小さい子たちは将来像のイメージ、中学生には企画する、人をまとめるなど社会に出ていくための準備になると思います。 ◇地域のマルシェや夢づくりプロジェクト事業の中心になって、生徒のみなさんが笑顔で参加されていた事が地域への活気や明るさにつながり、とても素晴らしいと思いました。小さい子どもたちも、その姿を見て憧れ、育っていくと思います。保幼小中のつながりを大切に、思いやりの心が育っていく教育が素敵だと思います。 ◆学校選択に対する小5への働きかけの充実を願う。 ◆特に小学校への出前授業や交流・連携活動を通して、さらに伊香立中の魅力を発信してほしい。	◎小6との交流は引き続き早い時期に行い、夢プロや巡回公演等で積極的に交流を図る ◎連携会議等で年間計画の共有を行い、小中のカリキュラムについて、早い時期にイメージをもって計画・実施する ◎行っている地域学習の内容を小中で交流する。 ◎保幼小中連携の計画を年度ごとに変更するのではなく、持続可能な大枠の計画を決定する会議の設定を模索していく。 ◎他教科から学べることもあることから、合同研修会を道徳に限らず実施することを検討していく。
	17	校種間の授業公開や合同研修会	2				
	18	保幼小中の接続期の教育課程の編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2				
組織的体制の充実							
① 生徒指導体制の充実	19	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導　※	2	3	〇週1回の生徒支援部会の開催で、情報交換や共通理解などをはかった。・予防的な声かけを継続している。生徒一人ひとりに寄り添った対応、支援がされている。 〇生徒の『いじめはいけない』という意識が上がっており、保護者、地域からもよく指導できている、教育相談体制がとれていると評価して頂いた。 ▼情報共有において、与えられるものだけではなく、自ら積極的に獲得しようとする姿勢をどの教員も持つべきである。また、得た情報について「自分事」として捉えていくべきである。意識を高く持ち更に素早く対応することが望まれる。 ▼十分とは言えないところもあるので、保護者・地域、教職員同士の連携を深めていきたい。	◇生徒一人一人を先生方がよく理解していただいていると感じる。 ◇伊香中祭を中心に、生徒たちが主体的に行事に取り組む、盛り上げるよう指導されていると感じます。 ◇生徒一人ひとりを大切にし、理解しながら導いておられると思います。	◎引き続き報告・連絡・相談を充実させ、教員の意識を高めていく。 ◎最悪の状況まで想定して生徒指導の方針を決める。 ◎開発的生徒指導を心がけ、後追い指導ではなく、先手を打つような指導をする。 ◎SCとの連携をスムーズにできるよう、体制を構築する。 ◎本校には人間関係づくりを苦手としている生徒が他地域からも選択して入学してきており、指導が入りづらいことがある。その生徒らにも理解しやすいよう、工夫を重
	20	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進※	2				
	21	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3				
② 特別支援教育の充実	22	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	3	〇本校が力を入れている授業等のユニバーサルデザイン化（視覚化・プリントの工夫・縦割り活動等）を試行錯誤しながら継続している。 〇必要な生徒への支援計画を家庭と連携を図りながら立案し、前期後期と分けて確認（振り返り）している。 ▼個々の生徒のニーズに沿った支援が複雑化してきており、希望に沿った支援の難しさ（限界）が増えてきている。 ▼支援を必要とする生徒が多い学校なので、特別支援に関する研修が増えても良いと思います。通級指導の活用が活性化すると良い。教育支援センターの巡回相談や教育相談を活用し、関係機関の先生からの助言を参考にする。 ▼組織的な体制づくりとして、教育支援部会の会議を持ち方を考える。伝達事項だけでなく、協議事項の時間を確保する。	◇個別の指導計画を教員で共有されており、充実していると感じます。個別性が重視される世の中になっており、今後教員の負担が過重にならないかという懸念はあります。 ◇通級教室の利用の仕方について、方法を考えていく必要がある。	◎TTの支援の仕方を共通理解する研修の機会を設ける。 ◎特別な支援を要する生徒の情報を、年度初めの会議で共有する機会を充実させる。 ◎個別支援を必要とする生徒が増えているので、教員の校内外での研修機会と情報共有・交流を増やし、更に人手の増員が急務でもある。 ◎通級教室が設置されたので、その活用法を考えていきたい。
	23	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	3				
	24	関係機関と連携した相談体制の充実	3				

※　特にいじめについては、学校基本方針の評価と関連させて行うこと

学校満足度	25	児童生徒の学校満足度	3	3	〇「学校は楽しいですか」の問いに対して、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた数は80%を超えており、生徒が良好な人間関係のもとで前向きに学校生活を送っていることがうかがえる。 〇子どもが「学校を楽しいと言っているか」の問いに対して、保護者の全てが「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した。「授業がわかりやすいと言っているか」の問いに対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者が約90%を超え、昨年より増加している。また、「先生が努力を適切に評価してくれるか」の問いに対しては、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した保護者が約90%を超えている。これらのことから、学校の様々な取組や支援による成果や結果が、保護者の期待に近いものであると思われる。 ▼「自分にはよいところがあると思うか」の問いに対して、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」と回答した生徒は約7%増加した。また、「授業はわかりやすいと思いますか」の問いに対して「どちらかと言えばあてはまる」以上の回答をした生徒が90%を超えているものの、「よくあてはまる」と回答した生徒が約6%減少している。このことから、多くの生徒が学校生活においておおむね満足していると思われるものの、自分に対する自信のなさや自尊感情の低さが感じ取れ、学習や取組に対する意欲や積極性等にも影響していると思われる。また、すべての生徒が学びの必然性を感じ、学習への興味・関心や学びに向かう意欲を高められる授業づくりが求められている。	◇学校は「楽しいところ」であることが一番。アットホームな雰囲気と先生方のきめ細やかな指導に敬意を表します。 ◇学年の枠を超えて生徒全体がひとつになり活動していること、そこに教員や地域支援者も加わり、協働できていると感じます。 ◆生徒の自信のなさや学習意欲の向上の数値が減少とのこと、改善策に取り組んでほしい。 ◆一人一人の個性を伸ばす教育を今後も期待します。	◎全生徒が自尊感情を高め、学校生活での満足だけでなく、学びに向かう力を高め、将来の夢や目標に向かって自分で道を拓いていけるよう、生徒が自ら学びたいと思える授業づくりやキャリア教育の充実に一層力を入れる。 ◎「自己有用感」に裏付けられた「自尊感情」の獲得を基盤として、生徒一人ひとりの自立・自律を支えるため、様々な方との出会いや豊かな体験活動を充実させる。 ◎子どもは認められて（自信をもって）育つという発想を基盤に、今後も子どもの良さや努力を認め、子どもに寄り添いながら発達を支援していく。 ◎学校選択制で伊香立中を選んだ生徒や保護者の意見を聴取し、小学校に伊香立中学校の良さをアピールできるようにしていく。

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.20
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値（3点満点、小数第2位まで記入）	2.54